

ベンチャー企業を「柏」に集中集積すべき

(本稿は、3月7日付千葉日報に掲載されたものです)

(株)ちばぎん総合研究所
上席研究員 滝本 哲哉

日本経済をリードする産業は、かつての重厚長大産業から家電・自動車、さらには電子機器・情報通信産業といったように、時代の流れとともに移り変わっている。この間、千葉県経済は、これまで京葉臨海工業地帯の鉄鋼・化学などの基礎素材型の製造業が発展の推進力となってきた。千葉県経済が今後も持続的に成長するためには、国際競争力のある研究開発型企業を多く育成することが不可欠であるが、そのためにはいかにして将来性豊かなベンチャー企業をできるだけ多く創出させ、あるいは有望なベンチャー企業を誘致して大きく育て上げていくかにかかっている。

近年、人口の都心回帰が進んでいるが、民間企業についてもソフト系IT産業を中心に、都心に集中している。低成長経済が継続することを前提とすれば、千葉県にベンチャー企業を集積するということは、東京都や神奈川県との地域間競争に打ち勝って、有望なベンチャー企業という限られたパイを奪い取るということである。そのためには、ベンチャー企業の経営者から、東京都や神奈川県ではなく千葉県を選択してもらえよう魅力ある「活躍の舞台」を用意しなければならない。

現在、千葉県では千葉地域(千葉市を中心とする地域)、東葛飾北部地域(柏市・松戸市を中心とする地域)、かずさ地域(木更津市・君津市を中心とする地域)の3地域において研究開発拠点の集積度を高めることを推し進めている。しかしながら、低成長下にあつて、民間企業は大型投資には慎重で、投資する地域も限定的になっている。こうした状況下で、行政が限られた財源をいくつかの拠点に分散投資すると、民間企業にとってみればどの地域も魅力がなく、進出するメリットが乏しくなってしまう。その結果、行政がいくら企業誘致を推し進めても、集積が思うように進まないということが考えられる。

個々のベンチャー企業の発展の源泉は言うまでもなくその企業が持っている技術力やビジネスモデルの独創性であるが、それらを事業化につなげ、さらに大きく成長するためには、その地域のベンチャー企業の集積に大きく左右される。そういった観点からみれば、ものづくりベンチャーの集積地としては、以下の理由から、東葛飾北部地域は千葉県のなかで最も発展の可能性がある。

①東京大学柏キャンパス、東京理科大学などの有力理工系大学や研究所が最も多く立地している。

- ②大型インキュベーション施設である東葛テクノプラザ、東大柏ベンチャープラザが立地している。
 - ③現状でも都心や成田空港の近くに立地しているが、つくばエクスプレスが開通して交通アクセスがさらに改善されれば、都内やつくば地区の大学や研究機関との連携が一層促進される。
 - ④一般機械、電気機械、電子・デバイスなどの加工組立型製造業の産業基盤が充実している。
- 繰り返しになるが、千葉県が投入できる資源には限りがある。県に備わっているベンチャー企業の成長支援効果を最大限発揮するには、ベンチャー企業を柏を中心とした東葛飾北部地域に重点的に集積させることが最も効率的である。

千葉・東葛飾北部・かずさ地域のベンチャー支援施設等の整備状況

	千葉地域	東葛飾北部地域	君津地域
主な大学	千葉大学 (工学部、理学部、医学部、看護学部、医学部)	東京大学柏キャンパス (大学院新領域創成科学研究科) 東京理科大学 (薬学部、基礎工学部、ゲノム創薬研究センター)	
研究機関	放射線医学総合研究所 千葉県産業支援技術研究所	東京大学柏キャンパス (物性研究所、宇宙線研究所)	かずさDNA研究所 製品評価技術基盤機構
大型インキュベーション施設	ベンチャーサポートセンターなど	東葛テクノプラザ 東大柏ベンチャープラザ	かずさインキュベーションセンター、クリエイション・コアかずさなど

(出所)千葉県ホームページ等より作成